

えこまち推進協さまざまな取り組み



講演を行う鈴木さん(左)

自然エネルギーを考える
 てしかがえこまち推進協議会(会長・徳永町長 情報部会山本和之部会長)は3月16日、摩周観光文化センターで「えこまちエネルギーセミナー」を開催しました。セミナーのテーマは「弟子屈をエコのまちに」。講師にNPO法人北海道グリーンファンドの鈴木亨理事長を迎えました。

鈴木さんは「自分たちのエネルギーは自分たちでつくり出そう」とを合言葉に、1999年にNPO法人を設立。市民出資を元に、浜頓別町に総事業費2億円の市民風車第1号機「はまかぜちゃん」を建設した経緯を説明しました。

また、日本の電力システムについても、供給ブッシュ供給側に焦点を置いた政策から

と同部会が企画したものです。この日は、壮瞥町で開催されている昭和和山国際雪合戦大会に数多く出場、活躍している「一直すっしーず」のメンバーの協力のもと、安全に競技をするための雪合戦ルールや雪玉の作り方、防具の装着を指導。連携した取り組みとなりました。大会には、町内から約

市場ブッシュ(市場を拡大することに焦点を置いた政策へ転換し、発送電分離と電力自由化が図られるなどと解説しました。

さらに「全国至る所で自然エネルギーへの取り組みがスタートしているが『もうかる仕組み』でなければ持続できないので注意が必要」と警鐘を鳴らしたほか「弟子屈のエネルギーの可能性としては、太陽光、小水力、バイオマス、地熱、温泉などが考えられるので、ぜひとも地域ファンドなどでチャレンジしてほしい」と話しました。

地元の冬を楽しもう



熱戦を繰り広げる子どもたち

30人の小学生が参加。時折雪がちらつく空の下、心地よい汗を流し、大きな歓声を響かせていました。熱戦の末「雪合戦魂」が優勝しました。

萩原部会長は「町の将来を担う子どもたちの成長は楽しみ。子どもたちが、地元の冬はこんなに楽しい遊びができる」と自慢できるよう、これからも継続した取り組みを続けたい」と話していました。

M A D E in てしかが vol.2 発行

食文化部会(本名瀬佐奈枝部会長)は、弟子屈を訪れるお客さまに弟子屈ならではの食を味わってほしいと、地場産食材を積極的に使用する店舗の増加を目指し「地・産・心・援 M A D E in てしかがガイド」というパンフレットにまとめ、配布してきました。この度、地元産の摩周そばを使用した食を提供するお店を紹介した、第2号が完成しました。

同部会では、今後も弟子屈ならではの食を応援するた



川湯の将来ビジョンを

川湯温泉地域の将来ビジョン策定を目指し、一昨年から数回にわたって開催されている「川湯温泉の明日と未来を考える会(榎本竜太郎会長)」が3月12日、川湯のホテルで開催され、本年度の事業を終了しました。

川湯温泉の将来ビジョンの共有と、具体的な取り組みについての検討を進めているものです。参加者のおのおのが提案した「やりたいことリスト」から優先順位の高いものを選び出し、サイクリングや自然を生かした取り組みを進めることが決定しました。

この事業は、環境省が進める国立公園地域の活性化の一環として行われています。今後は、さらなる具体化を進めるとともに、議論をもとに「川湯の将来ビジョン」を取りまとめていくこととしています。



熱心に議論する参加者



吉田栄作さんコンサートのオープニングを務めた秋吉文絵さん



道の駅摩周温泉でチャリティーコンサートを行った吉田栄作さん



ギタリスト柳澤英毅さん(右)と一緒に会場を盛り上げた吉田さん



3月11日14時46分 東日本大震災被災者への追悼の意を込めて水郷公園なんだらう橋の鐘を鳴らす

町全体が芸術の舞台

てしかが アートフェスティバル 2013



湯の島通りに出現した芸術作品の数々

てしかがえこまち推進協議会(会長・徳永町長)主催(主管:アート&アド部会(今井善昭部会長))の「てしかがアートフェスティバル2013」が、3月9日から17日にかけて町内各地で開催されました。

町全体を舞台に、音楽や美術、自然などさまざまな角度から芸術を発信する複合イベント。東日本大震災から2年を迎える3月11日をはさんだ会期とすることで、震災復興支援のチャリティーイベントとしての位置づけもありました。歌手で俳優の吉田栄作さんのコンサートを皮切りに、ホテル摩周の客室を全国各地から集まった芸術家が創作の場とする「泊まれるアート」、湯の島公園から道の駅摩周温泉までの湯の島通りでの野外美術展示など、多彩な催しが行われ、延べ800人の皆さんにぎわいました。

イベント会場では、来場者の皆さんに募金への協力を呼びかけ、寄せられた募金は全額、宮城県石巻市で行われる復興支援イベントの開催支援費として寄附されました。